名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	生物学（Biology）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	吉田　正義
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	金曜・3限

【授業の学習内容】

歯科衛生士教本「生物学」、学習プリントに従って、各章を順に学習していく。生物学は、国家資格の取得に関係する科目を学ぶための基礎・基本となり、他の自然科学に関する科目を学習をする上で欠くことができない科目である。
学習内容は次の単元に分け、15コマで学習する。
1）生命とは何か　2）組織と細胞　3）細胞と生命活動　4）細胞周期と分化　5）生命の連続　6）刺激の受容と反応　7）内部環境の維持　8）動物の行動と人類

【到達目標】

・今後展開される生命科学系の科目を学習する上で基礎となる生物学の知識を身につける。
・ヒトの体の構成と生きていくための働き、子孫を維持するしくみをミクロの視点から学習する。
・人と生態系、地球環境との関わりや働きについてマクロの視点から学習する。
・私たちが直面しているさまざまな環境の問題を解決するためにも、生態系や自然環境の変化の現状を正しく把握し、人間の幸福にどのように影響しているかを考える。

＊実務者経験

昭和56年、愛知教育大学大学院教育学研究科修了後、県立時習館高等学校をはじめ6校の県立高等学校で勤務。平成29年、県立幸田高等学校校長として定年退職後は、人間環境大学付属岡崎高等学校、県立豊橋東高等学校において嘱託教諭、非常勤講師として教鞭を執る。令和6年度は県立豊橋東高等学校、県立小坂井高等学校に非常勤講師として勤務。

授業計画・内容	
1回目	生命とは何か
2回目	組織と細胞Ⅰ　生体と化学物質
3回目	組織と細胞Ⅱ　生命の基本単位・細胞
4回目	組織と細胞Ⅲ　膜の性質と物質移動
5回目	細胞と生命活動
6回目	細胞周期と分化
7回目	生命の連続Ⅰ　生殖
8回目	生命の連続Ⅱ　遺伝と遺伝子
9回目	生命の連続Ⅲ　遺伝子とその発現
10回目	生命の連続Ⅳ　発生と分化
11回目	刺激の受容と反応
12回目	内部環境の維持Ⅰ　恒常性の維持
13回目	内部環境の維持Ⅱ　生体防御
14回目	動物の行動と人類
15回目	試験

準備学習時間外学習	講義の前には予習として、学習内容について本校テキストおよび高校の生物基礎の教科書で学習する必要がある。 また、講義後には自宅で毎回の講義内容の確認テストを受け、学習内容の確認と定着を図る。
評価方法	1. 定期試験（60%） 2. レポート 課題成果（20%） 3. 出席得点（20%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	歯科衛生士をはじめとして医療に携わる者は、生命科学の知識や理解なくして、人間の体の成り立ち、仕組み、働きなどを理解することはできず、生物学の知識と応用の延長上に歯科医学の基礎を作る解剖学、組織学、生理学、生化学などの分野も展開している。生物学では、テーマ別に生命現象を学び、「生命とは何か」探究していきたい。

【使用教科書・教材・参考書】

最新歯科衛生士教本「生物学」

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	外国語（Foreign Language ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	ILC Michael Earnest
学科	歯科衛生士科	授業形態	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間Ｉ部			（単位）	2	曜日・時限	火・2

【授業の学習内容】

主に高校時代に既に学んだ英語の文法や語彙に関する知識の復習と、ネイティブ講師とのスピーキングやリスニング練習を通じ、日常の様々な場面において自分の伝えたいことを自分の言葉で表現する方法を学ぶ。
実務者経験：TESOL(英語教授法)の修士号を取得し、2002～2009年まで英語非常勤講師として教育に携わる。2010年より（株）国際教育社において専門学校での英語教育（基礎英語、ビジネス英語、医学英語）に携わる。

【到達目標】

・海外研修や職場、日常生活で使う英語コミュニケーションスキルの習得する。
・相手が何を求めているのかを確認したり、依頼や意見を聞いたり、様々な場面での英語を学ぶ。
・学生の英語学習に対する興味を高くし、海外文化についての理解を深めたり、国際的なコミュニケーションをするための自信をつける。

授業計画・内容	
1回目	L.1 オリエンテーション、自己紹介、挨拶ができるようになる。
2回目	L.3 パーソナルな情報について、受け答えができるようになる。
3回目	L.6 趣味、好きなことについて尋ねる、また答えることができるようになる。
4回目	L.8 意見を尋ねる、述べる。招待に対する受け答えができるようになる。
5回目	L.11 褒める表現を理解できる。また褒められたときの受け答えができるようになる。
6回目	L7,13 時間について尋ねる、答えることができる。日課について質問・説明できるようになる。
7回目	L.14 質問に対する受け答えができるようになる。
8回目	L.19＆20 場所について説明できる、道順を教える、また答えることができるようになる。
9回目	L.21＆23 価格についての受け答えができるようになる。頻度について質問・説明できるようになる。
10回目	L.28 食事に関する表現方法を学ぶ。レストランで注文ができるようになる。
11回目	L.29＆30 過去の出来事について述べられるようになる。
12回目	L.32 未来の計画について述べられるようになる。
13回目	復習＆歯科英語の学習
14回目	定期試験
15回目	定期試験返却、解説
準備学習時間外学習	授業を受けるにあたり、中学と高校の英語の復習をしておきましょう。オンラインでの学習（リスニング、文法など）が可能です。
評価方法	1. 定期試験（100 %） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	受身の姿勢ではなく、自分から発信し、積極的な姿勢で授業に参加してください。 基礎英語を楽しく学びましょう。分からない時は遠慮せずに先生に質問してください。

【使用教科書・教材・参考書】

「Speak Now 1」Jack C. Richards/ David Bohlke, Oxford University Press

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	情報社会学（ Information Sociology ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	黒柳 茂
学科	歯科衛生科	授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	月曜日 ・ 1限

【授業の学習内容】

Word－Basic タイピング 文書作成 簡単なチラシ ポスター制作 広告など作成情報提供できる 基礎から応用までできる
Excel―Basic 表計算とグラフ作成 表によるデータの取り扱い方 基礎から応用利用までを習得する
power point プレゼンテーション パワーポイントを使った資料作成、実施と反省 基礎習得

【到達目標】

Word 基本的なビジネス文書、表挿入文書、イラスト、図入り文書など自由にパソコンが使いこなすことができる。

Excel 基本的な計算、関数を利用した表作成、編集、グラフ、レイアウトについて習得する。

PowerPoint Microsoft officewoを利用して、操作手順、例題、例題作成を通じてストーリーづくり、実践発表を習得する。

授業計画・内容	
1回目	PCルーム Word ＆ Excelの概要説明 授業計画・内容説明
2回目	PCルーム Word① 基礎的演習、機能操作を行う
3回目	PCルーム Word② タイピング ビジネス文書形式と文書表現の基本
4回目	PCルーム Word③ タイピング ビジネス文書（修飾 均等割り付け）文書の保存、印刷
5回目	PCルーム Word④ タイピング 表作成 図形要素の挿入 ワードアート smartArt 表の編集 まとめ
6回目	PCルーム Word⑤ タイピング ワード総練習
7回目	PCルーム Excel⑥ タイピング 概要説明 基本の表作成
8回目	PCルーム Excel⑦ タイピング グラフ作成方法 データ編集
9回目	PCルーム Excel⑧ タイピング 関数を利用してグラフ作成する。円グラフ 棒グラフ 折れ線グラフ
10回目	PCルーム Excel⑨ タイピング 関数を利用して書式、編集など 条件判断など 論理関数 式、真、偽、引数など
11回目	PCルーム パワーポイントI⑩ タイピング プレゼンテーションとは ストーリーづくり
12回目	PCルーム パワーポイント⑪ 確認シート作成 テーマ 理由を明確にしてスライド作成
13回目	PCルーム パワーポイント⑫ スライド作成10枚以上の作成 はじめ 終わりの注意
14回目	PCルーム パワーポイント⑬ プレゼン発表1人5分評価と改善 発表 テスト予告
15回目	PCルーム パワーポイント⑭ プレゼン発表1人5分評価と改善 テスト 筆記
16回目	PCルーム 定期試験解説 返却 まとめ
準備学習時間外学習	使用教材以外はプリント課題提供する。結果はUSBに保存しておく。提出で習得できる。
評価方法	1. 定期試験（50%） 2. 実技試験（40%） 3. 授業態度・レポート提出（10%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
受講生へのメッセージ	パソコンで文書を作成することは、当たり前とされています。就職でビジネスで役に立つ科目です。

【使用教科書・教材・参考書】 Word ＆Excel 2010 実教出版 30時間でマスタープレゼンテーションPowerPOINT 実教出版

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	社会学（ Sociology ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	北村 和矢
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	15	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	水曜 2限

【授業の学習内容】

日本文化の特質は「神仏習合」ということになると考えます。
日本列島の風土性に培われた「アニミズム・美意識」を基に、仏教の伝来から始まる日本文化「文明化」の過程をたどり、日本人と日本社会の歴史的な特質を解析します。その上で構築された「近代社会」のさまざまな問題点を、特に「平成時代」を中心にあぶり出します。現代の様々な社会現象を見つめることから、具体的な改良策を構想させようと思います。
＜取り上げる内容＞「アニミズム・神仏習合」「金融資本主義、成熟社会」「AI、スマホ、ロボット技術」「アニメ、和食文化」「都市化、里山資本主義」「おまかせ民主主義」など。
※実務者経験：38年間、公立高校の国語教師を務めていた。説話文学と民俗学を専攻。国語・社会の免許取得。

【到達目標】

（1）、日本人と日本社会の特質を、論理的に考え、理解し、説明することができる。
（2）、日本社会で問題となっている現象を、歴史的観点から、外国と比較し、解説することができる。
（3）、上記（1）（2）を踏まえ、日本社会を良くするための独自な工夫・改正案を、出来る限り具体的に構想・表現し、一部でも実行することができる。

授業計画・内容	
1回目	社会学の概念を理解し、自分自身の考えをまとめる姿勢を構築する。
2回目	日本文化の特質「アニミズム・神仏習合」について考え、説明することができる。
3回目	「平成の30年間で何が変わったか」を理解し、説明することができる。
4回目	AI社会・フェイクニュース・アニメ文化・和食文化について考え、意見を述べることができる。
5回目	経済の基礎知識「貨幣・銀行・投資」「金融資本と里山資本」を理解し、説明することができる。
6回目	東京一極集中、グローバル化、高齢化、少子化の問題について考え、意見を述べることができる。
7回目	「民主主義の本質」について映画「十二人の怒れる男」を鑑賞して、考え、意見を述べることができる。
8回目	講座の総整理。日本社会・文化の特質について、意見を述べることができる。
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習時間外学習	「今だけ、金だけ、自分だけ（良ければいい）」という「発想」が、現代の「おまかせ民主主義」（自分に都合のいい体制を、誰かが作って、守ってほしいという考え）を生んでいます。 現代の社会構造の歪み・不公正は、この風潮が作り出したという面があります。そういう視点から、身近な事象を見つめ直しておいて下さい。		
評価方法	1. 授業態度（30%） 2. レポート（70%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	授業中の発言・態度（30%）、提出物の内容・表現（70%）で点数化し、評価します。毎回提出してもらったレポートを添削し、コメントをつけて返却します。提出物のウエイトは大きく、欠席すると、その時間の提出物が出せなくなりますので、評価は下がることになります。
受講生へのメッセージ	日本人の特質（美意識）を踏まえ、現代日本社会の様々な現象を、歴史的な観点から解析します。 その上で、問題点を整理し、よりよい社会を構築するための方策を考えましょう。 目指すべきは「豊かな共生社会」と言える社会です。		

【使用教科書・教材・参考書】

プリントを配布します。毎時間DVDを使って映像を見せる予定ですから、当番の学生はデッキの準備をしておいて下さい。

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	国語応用（Applied National Language）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	北村 和矢
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	金曜　2限

【授業の学習内容】

感性を豊かにすることが人間の幸福を実現する道と考えます。
感性を豊かにするためには、知的好奇心を旺盛に持って、質の高い「面白さ・美しさ」を感じることが出来る力が必要です。この講座では、様々な文章を読解し、精選した映像を鑑賞して、その感想・意見を、自分の言葉で表現する授業を展開します。合わせて、日本語の特質となる事柄を、問題を解くことを通して学習します。読解力と表現力を鍛えることによって、感性を豊かにし、当面の目標である国家試験対策だけにとどまらず、豊かな人生を送ってもらうことが、大きな目標です。※実務者経験: 38年間、公立高校の国語教師を務めていた。

【到達目標】

① 質の高い「面白さ・美しさ」を持つ文章・映像に多く接し、その正確な読解、深い鑑賞が出来るようになるとともに、それらを介して、自分の生き方、考え方を深く考察できるようになること。
②演習問題を通して日本語の特質を理解し、特に論理的な文章を正確に読解する力を身につけ、その上で、自分の考察した内容を簡潔・明瞭に表現できるようになること。

授業計画・内容	
1回目	水木しげる「幸福の7ヵ条」を使って講座目標（読解力の前提）を提示する。その感想・意見を表現できる。
2回目	「漢字の基礎」「ひらがなの字源」を解答できる。「天才えりちゃん金魚を食べた」の感想・意見を表現できる。
3回目	「分った」「分数の割り算は必要か」の感想・意見を表現できる。「類義語・関連語」演習問題に解答できる。
4回目	「愛と恋の違い（恋愛論）」の感想・意見を表現できる。「句読点・文末表現」演習問題に解答できる。
5回目	「ヘレンケラー」、「最高の贈り物」の感想・意見を表現できる。「誤りやすい言葉」演習問題に解答できる。
6回目	「断食体験記」「『ちびくろサンボ』の問題点」の感想・意見を表現できる。「慣用的な表現」演習問題に解答できる。
7回目	「からだ言葉」「上品さとはどういうものか」「平成に売れたベストセラー」の感想・意見を表現できる。
8回目	「血液型と性格」「「孤独感と淋しさ」「名言集」。講座全体のまとめ。
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	私たち人間は「言葉の世界」で生きています。 自分が感じることも考えることも、「言葉」によってなされています。 朝起きてから寝るまでの、自分の「言葉づかい」をしっかり意識して下さい。 「言葉を貧しく、汚く、使う人に、言葉は必ず復讐して、その人を貧しく、汚く、でたらめな性格にする」（唐木順三） それが「国語応用」受講で心がけてもらいたい第一のことです。
評価方法	1. 授業中の発言・態度（30%） 2. 提出物の内容・表現（70%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格 授業中の発言・態度（30%）、提出物の内容・表現（70%）を点数化して評価します。毎回提出してもらったレポートを添削し、コメントをつけて返却します。提出物のウエイトは大きく、欠席すると、その時間の提出物が出せなくなりますので、評価は下がることになります。
受講生へのメッセージ	この講座では、質の高い、色々な文章（映像も）を紹介します。そこには君たちの知らない事柄が多く描かれているはずです。是非、興味を持って、意欲的に、読んで（観て）下さい。その上で自分の感じた事・考えたことを表現してみて下さい。日本語の特質を理解してもらうための問題演習にも、しっかり取り組んで下さい。読解と表現の学習を通して、視野を広げ、豊かな感性を身につけて、「幸せ」に生きて行ってもらうことが目標です。

【使用教科書・教材・参考書】

プリントを配布します。毎時間DVDを使って映像を見せる予定です

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	解剖学（Anatomy）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	四釜 洋介
学科	歯科衛生士科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	月曜 ・ 4限

【授業の学習内容】

解剖学は身体とそれを構成している部分の構造と形態について、またそれらの相互関連性について学ぶ学問です。人体を構成する器官を骨格系、筋系、消化器系、循環器系、神経系、呼吸器系、感覚器系、内分泌系、泌尿生殖器系に分け、その形態、機能、および相互の関連性を習得し、説明できる様になる事を目的とする。
実務者経験:大学病院、高度専門医療研究センターに所属し、歯科・口腔領域の臨床と基礎研究に従事してきた。

【到達目標】

歯科衛生士として、人体諸器官の肉眼的形態、位置、構造、およびそれらの機能を習得する事を目的とする。
1. 人体の構造と機能、組織・発生に関する基本的知識を習得する。
2. 部位や方向用語等、基礎的な解剖学的専門用語を習得する。

授業計画・内容	
1回目	総論：解剖学とは何か、器官、方向用語等に関する名称について理解し説明できる。（教科書P.1-8）
2回目	組織、発生：上皮組織や支持組織の構造と機能、およびヒトの発生過程と奇形発生時期について理解し説明できる。（教科書P.21-44）
3回目	骨格系I：骨の機能、構造、形態、および発生について理解し説明できる。（教科書P.46-51）
4回目	骨格系II：骨の名称、形態、位置について理解し説明できる。（教科書P.52-63）
5回目	筋系：筋組織の種類、名称、位置、機能について理解し説明できる。（教科書P.64-79）
6回目	消化器系I：消化器系の名称および位置について理解し説明できる。（教科書P.84-97）
7回目	消化器系II：消化器系の構造および機能について理解し説明できる。（教科書P.98-108）
8回目	循環器系I：血管および心臓の構造、血液循環について理解し説明できる。（教科書P.109-112, 122-129）
9回目	循環器系II：動脈、静脈、およびリンパ系の構造、機能および分布について理解し説明できる。（教科書P.140-155）
10回目	中枢神経系：脳および脊髄の構造について理解し説明できる。（教科書P.185-195）
11回目	末梢神経系：脳神経、脊髄神経、自律神経の構成について理解し説明できる。（教科書P.196-203）
12回目	呼吸器系：鼻腔、咽頭、気管、肺の構造について理解し説明できる。（教科書P.213-225）
13回目	感覚器系：視覚器、平衡聴覚器、皮膚の構造について理解し説明できる。（教科書P.156-178）
14回目	泌尿生殖器系：泌尿生殖器の構造および機能について理解し説明できる。（教科書P.234-245）
15回目	試験・試験解説
準備学習時間外学習	各回ごとにプリントを配布します。整理と内容の復習を行ってください。3年生になった時の国家試験対策にもこのプリントを使用するので、各自しっかり保管しておいて下さい。
評価方法	1. 定期試験（90%） 2. 出席（10%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格 出席、授業態度(10%)、定期試験(90%)
受講生へのメッセージ	例えば歯周病と糖尿病の様に、顎顔面領域の疾患の病態形成に、全身疾患が関与する事が知られています。全身状態から口腔内の状態を推察し、また口腔内環境が全身におよぼす影響を把握できる歯科衛生士になるためには、口腔だけでなく全身の解剖学も学ぶ必要があります。出来るだけ分かりやすく授業したいと考えております。

【使用教科書・教材・参考書】

歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	口腔解剖学（Oral Anatomy）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	小林義和、近石壮登
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	45	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				3	曜日・時限	火曜・34限目

【授業の学習内容】

歯科衛生士を目指す上で、歯、歯周組織のみならず、口腔顎顔面の諸器官の解剖、発生に基づく治療を実践することが大変重要です。本講義は学・口腔の構造と機能、歯および歯周組織の構造と機能について、機能や形態だけでなく、発生についても学習し、説明ができるようになることを目標とします。

また、歯のスケッチや彫刻といった実習を通じ、標準的な歯の形態についても説明ができるようになります。

※実務者経験：各担当教員とも口腔外科学講座に所属し、顎顔面領域の疾患治療に従事している。

【到達目標】

歯科医療に従事するプロフェッショナルに必要な、歯・歯周組織・口腔顎顔面領域の諸器官の知識について、解剖・発生から学習します。

目標①顎・口腔の構造と機能について説明ができる

目標②歯および歯周組織の構造と機能について説明ができる

目標③歯のスケッチや彫刻を通じ、構造について説明ができる

授業計画・内容	
1回目	（目標①）口腔の概要について説明できる（小林）
2回目	（目標①）口腔を構成する骨について説明できる（小林）
3回目	（目標①）頭頸部の筋と作用について説明できる（小林）
4回目	（目標①）顎関節について説明できる（小林）
5回目	（目標①）口腔付近に分布する脈管系について説明できる（小林）
6回目	（目標①）神経について説明できる（小林）
7回目	（目標②）歯の形態の概要について説明できる（小林）
8回目	（目標②）永久歯（前歯）の形態について説明できる（小林）
9回目	（目標②）永久歯（臼歯）の形態について説明できる（小林）
10回目	（目標②）乳歯の形態について説明できる（小林）
11回目	（目標②）特色のある歯の形態について説明できる（小林）
12回目	（目標②）歯列と咬合の形式について説明できる（小林）
13回目	（目標①）鰓弓の形成について説明できる（小林）
14回目	（目標①）顔面と口唇の形成、口蓋と鼻腔の形成、舌の形成について説明できる（小林）
15回目	（目標②）エナメル質、象牙質・歯髄複合体について説明できる（近石）
16回目	（目標②）セメント質について説明できる（近石）
17回目	（目標②）歯根膜・歯槽骨、歯肉の構造と機能について説明できる（近石）
18回目	（目標②）歯周組織の生理、口腔粘膜の構造と機能について説明できる（近石）
19回目	（目標②）先行歯、代生歯および加生歯の発生、歯の萌出、歯の脱落と交換について説明できる（近石）
20回目	（目標③）代表的な歯のスケッチができる（近石）
21回目	（目標③）代表的な歯の彫刻ができる（小林）
22回目	（目標③）代表的な歯の彫刻ができる（小林）
23回目	定期試験
24回目	定期試験の解説
準備学習時間外学習	スケッチや彫刻といった実習は十分な時間をとっていますが、終了しなかった場合は時間外の学習と課題の提出が必要です。
評価方法	1. 定期試験（80%） 2. 課題成果（20%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格 スケッチや彫刻などの課題の提出状況、理解度について評価します。定期試験で知識の到達度を評価します。
受講生へのメッセージ	本講義で学ぶ解剖や発生の知識は、口腔や歯の機能を学ぶ上で有用となります。ここで得た知識が先々の講義や実習の基礎となるので、じっくりと取り組んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：全国歯科衛生士教育協議会　監修：歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	生理学（Physiology）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	四釜洋介
学科	歯科衛生士科	授業形態	講義	総時間（単位）	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	月曜・3限

【授業の学習内容】

生理学は、生物が持つ様々な機能およびその調節機構を理解するための学問である。ヒトをはじめとした生物は細胞から構成されており、組織および器官を形成し、一個体として成り立っている事を理解し、医療現場で必須となる生命科学の基礎知識習得を目指す。口腔領域ばかりでなく、一般生理学を学ぶ事により、全身状態から口腔環境を推察できる医療人になってもらえる事を期待する。
実務者経験:大学病院、高度専門医療研究センターに所属し、歯科・口腔領域の臨床と基礎研究に従事してきた。

【到達目標】

1. 組織の種類およびそれらを構成する細胞の基本構造、機能について説明できる。
2. 循環器系の基本的な構造および機能について説明できる。
3. 中枢、末梢神経の構造および機能、また興奮の伝導、伝達について説明できる。
4. 呼吸器系の機能および体温調節機序について説明できる。
5. 内分泌の定義やそれを担う組織、器官、およびホルモンの種類、機能について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	細胞:タンパク質の合成と細胞膜の役割について説明できる。(教科書 P.12-20)
2回目	血液:血管の機能、血球成分の働きと、血液凝固について説明できる。(教科書 P.112-122)
3回目	循環:心臓の構造や拍動のコントロール、心電図について説明できる。(教科書 P.129-140)
4回目	ニューロン:神経細胞内の興奮伝導と神経細胞間の興奮伝達について説明できる。(教科書 P.80-81, 179-185)
5回目	神経系:神経系の分類と機能について説明できる。(教科書 P.201-212)
6回目	呼吸、体温:呼吸器系の機能および体温調節機序について説明できる。(教科書 P.225-233、269-278)
7回目	内分泌:内分泌系の機能と調節機序について説明できる。(教科書 P.246-258)
8回目	定期試験、試験解説
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習時間外学習	生物学の知識が必要になるので、高校で生物学を履修していない方はあらかじめ勉強しておいてください。主に解剖学で構造を、生理学でその機能を勉強するので、解剖学の知識も重要になります。特に復習に重点を置き、授業で学んだ事をしっかりと自分のものにしてください。		
評価方法	1. 定期試験(90%) 2. 出席(10%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	出席、授業態度(10%)、定期試験(90%)
受講生へのメッセージ	歯科衛生士として臨床を行う際に、患者さんの予想外の反応、行動に出くわす事が少なからずあります。それを理解、対処する上で生理学で学ぶ知識は重要になります。各回ごとにプリントを配布します。整理と内容の復習を行ってください。3年生になった時の国家試験対策にもこのプリントを使用するので、各自しっかり保管しておいて下さい。		

【使用教科書・教材・参考書】

歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	口腔生理学（Oral Physiology）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	松下 健二
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			（単位）	2	曜日・時限	火曜・3限

【授業の学習内容】

生理学は「からだの構造と働き」を学ぶ学問である。口腔生理学では、歯および口腔の機能、口腔感覚、咬合と咀嚼、嚥下と嘔吐、発声機構、唾液の働きなどについて学び、全身の健康 維持と口腔機能との関わりについて理解する。
※実務者経験：歯科大学および国立研究機関において、口腔機能と全身の健康に関する研究と教育を行ってきた。

【到達目標】

歯・口腔とその周囲組織の生理機能に関する基礎知識を修得する。

授業計画・内容	
1回目	歯と口腔の感覚（歯の感覚、口腔粘膜の感覚）について説明できる
2回目	味覚（味覚の役割、感受性、味蕾、味覚の神経機構、味盲）について説明できる
3回目	嗅覚（役割、特性、嗅覚器と嗅細胞、神経機構、嗅覚障害と嗅盲）について説明できる
4回目	咬合と咀嚼・吸啜1（下顎位、下顎の運動）について説明できる
5回目	咬合と咀嚼・吸啜2（顎反射、摂食行動）について説明できる
6回目	咬合と咀嚼・吸啜3（咀嚼能力、吸啜）について説明できる
7回目	嚥下と嘔吐1（嚥下と嘔吐に関わる構造）について説明できる
8回目	嚥下と嘔吐2（嚥下）について説明できる
9回目	嚥下と嘔吐3（嘔吐）について説明できる
10回目	発声1（発声機構）について説明できる
11回目	発声2（歯・口腔の病態と発音）
12回目	唾液1（唾液腺、唾液の分泌機構）について説明できる
13回目	唾液2（唾液の性状・成分と機能）について説明できる
14回目	唾液3（唾液と疾患）について説明できる
15回目	試験および試験解説
準備学習時間外学習	数回復習テストを行うので、授業後の復習をしっかり行うこと。また、アクティブラーニングも実施するので、しっかり予習をして発表できるようにすること。
評価方法	1. 出席状況（最低出席日数に足りていること） 2. 小テスト・レポート（20%） 3. 定期試験（80%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
受講生へのメッセージ	歯科医療の目的は顎顔面口腔系の機能を健全に維持することです。また、口腔機能の維持と向上は、健康寿命の延伸に不可欠です。今後ますます重要となる学問なので、しっかり原理を理解しながら学んでいきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本　歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学. 医歯薬出版

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	病理学（Pathology）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	松下　健二
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	火曜・4限

【授業の学習内容】

本科目では、疾病の分類、原因及びその病態に関する基本的知識を習得し、人体の性状と異常の関連性について習得する。特に口腔疾患の病理について深く学び、全身との関わりについて説明できるようにする。

※実務者経験：歯科大学および国立研究機関において、口腔疾患の病因論に関する研究を行うとともに、学部学生および大学院生の口腔病理講義を担当。

【到達目標】

歯科医療の現場で、根拠に基づく診断と処置が出来る歯科衛生士となるための病理の知識を修得する。特にう蝕、歯周病、口腔粘膜疾患等の特性を理解し、習得する。

授業計画・内容	
1回目	病理学序論（病理学の歴史、病因論）について説明できる
2回目	病理学総論Ⅰ（遺伝性疾患、代謝障害）について説明できる
3回目	病理学総論Ⅱ（増殖と修復、循環障害）について説明できる
4回目	病理学総論Ⅲ（炎症、免疫異常）について説明できる
5回目	病理学総論Ⅰ（腫瘍）について説明できる
6回目	口腔病理学Ⅰ（歯の異常）について説明できる
7回目	口腔病理学Ⅱ（う蝕）について説明できる
8回目	口腔病理学Ⅲ（歯髄炎、根尖性歯周炎）
9回目	口腔病理学Ⅳ（口腔の発育異常）について説明できる
10回目	口腔病理学Ⅴ（口腔粘膜疾患）について説明できる
11回目	口腔病理学Ⅵ（口腔の腫瘍）について説明できる
12回目	口腔病理学Ⅶ（顎骨の病変、唾液腺疾患）について説明できる
13回目	アクティブラーニング（新型コロナウイルスの病因論、歯周病と全身疾患の関連性）
14回目	総復習（口腔病理学の要点について説明できる）
15回目	試験・試験解説（試験問題を全て理解し、説明できる）

準備学習時間外学習	数回復習テストを行うので、授業後の復習をしっかり行うこと。また、アクティブラーニングも実施するので、しっかり予習をして発表できるようにすること。		
評価方法	1. 出席状況（最低出席日数に足りていること） 2. 小テスト（20%） 3. 定期試験（80%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	
受講生へのメッセージ	患者の口腔内でみられる病気を発見し、適切な診断や処置が行えるよう歯科医師をサポートすることは、歯科衛生士の重要な業務です。口腔疾患の肉眼所見、病理組織、病因等を十分理解し、説明できるよう頑張りましょう。		

【使用教科書・教材・参考書】

最新歯科衛生士教本・疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学（医歯薬出版）

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	微生物学（Microbiology）	必修選択	必須	年次	1年生	担当教員	松下　健二
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	金曜・1限

【授業の学習内容】

本科目では、病原微生物の特徴とその病原性を習得するとともに、口腔および全身疾患のとの関連性を理解する。また、生体の防御反応についても理解し、臨床現場での感染対策に役立てる。
実務者経験：歯科大学および国立研究機関において、口腔細菌の病原性に関する研究を行うとともに、学部学生および大学院生の口腔微生物学講義、演習および実習を担当。

【到達目標】

歯科医療の現場で、根拠に基づく感染対策が出来る歯科衛生士となるための微生物の知識を修得する。口腔細菌の特性を理解するとともに、宿主の応答の流れ、全体像を説明できる。加えて、口腔細菌が全身に及ぼす影響を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	微生物学総論（微生物の一般性状）について説明できる
2回目	感染論Ⅰ（感染症とは、感染症の種類、感染経路）について説明できる
3回目	免疫学概論について説明できる
4回目	自然免疫（食細胞、抗体、補体）について説明できる
5回目	獲得免疫Ⅰ（細胞性免疫）について説明できる
6回目	獲得免疫Ⅱ（液性免疫）について説明できる
7回目	過敏症（アレルギー、自己免疫）について説明できる
8回目	微生物学各論Ⅰ（グラム陰性菌、グラム陽性菌、真菌、ウイルス）について説明できる
9回目	微生物学各論Ⅱ（う蝕関連細菌、う蝕病因論）について説明できる
10回目	微生物学各論Ⅲ（歯周病関連細菌、歯周病病因論）について説明できる
11回目	口腔感染症と全身疾患について説明できる
12回目	安全対策（歯科医療現場における安全対策）について説明できる
13回目	総復習（微生物学・免疫学の要点について説明できる）
14回目	総復習（口腔微生物学の要点について説明できる）
15回目	期末試験解説（試験問題を全て理解し、説明できる）
準備学習時間外学習	数回復習テストを行うので、授業後の復習をしっかり行うこと。また、アクティブラーニングも実施するので、しっかり予習をして発表できるようにすること。
評価方法	1. 出席状況（最低出席日数に足りていること） 2. 小テスト・レポート（20%） 3. 定期試験（80%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	ヒトは微生物と共生していますが、その微生物が病気を引き起こすことがあります。口腔微生物はう蝕や歯周病だけでなく、全身の健康に影響を及ぼします。この科目では、病気の原因となる微生物の特徴を理解するとともに、それらに対する体の反応（免疫）について学習します。微生物と宿主の相互作用を理解した上で、歯科医院における感染対策ができるよう勉強していきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

最新歯科衛生士教本・疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学（医歯薬出版）

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	薬理学（Pharmacology）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	能勢　弓
学科	歯科衛生士科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	木曜・2限

【授業の学習内容】

薬理学は、薬が効く理由を明らかにする学問である。薬（主に化学物質）が、生体にどのような作用をするのか、その結果、何が起きるのか、そしてどのように薬としての役割を果たすのかがテーマである。講義では、薬と生体の関わり合いについての基本的知識を習得し、医療従事者として適正に薬を扱うとはどういうことなのか、またそれがなぜ重要なのかを理解し、身につける。

※実務者経験：名古屋市立大学薬学部を卒業後薬剤師免許を取得、同大学院にて博士課程を修了と同時に学位を取得、東京理科大学薬学部教員、ワシントン州立大学生化学研究所研究員、国立長寿医療研究センター研究員などを経て、現在も愛知学院大学薬学部、金城学院大学薬学部にて非常勤で指導を行っている。

【到達目標】

具体的には、以下の３点を目標とする。

1. 薬理学の分野で使用される基本用語、薬が生体内に入った後どこで、何が、どのように働くことで作用を示すのか、薬の効き方を左右する要因、有害作用などについて学習し、説明できる。
2. 医薬品の正しい取り扱いや保管方法を学び、説明できる。
3. 歯科領域で使用される薬だけでなく、患者が他科において処方されたり自分で使用している薬について、薬理作用や副作用、相互作用を学び、適正かつ安全に使うための知識を習得する。

授業計画・内容	
1回目	薬物の作用と用量
2回目	薬物の作用機序と体内動態
3回目	薬物に関するパラメータと適用方法
4回目	薬物の作用に影響する要因
5回目	薬物の副作用と有害作用
6回目	薬物の取り扱いと関係する法律
7回目	神経に作用する薬物（1）　末梢神経
8回目	神経に作用する薬物（2）　中枢神経
9回目	痛みに用いる薬物と局所麻酔
10回目	炎症に用いる薬物
11回目	止血と感染症に用いる薬物
12回目	消毒薬と口腔内に使用する薬物
13回目	口腔内に使用する薬物と全身疾患に用いる薬物
14回目	全身作用薬と歯科医療
15回目	試験および試験解説
準備学習時間外学習	毎時間、重要事項を確認するためのクイズを出題するので、それを解くことで講義の復習を行う。次回の講義の最初に解説するので、1週間の間に当該箇所の確認をしておくように。 また、内容のまとまりごとに小テストを実施する場合もあるので、常に復習が必要である。 自分を含め、家族、友人など身近な人が使用したことのある薬について商品名、主要薬物名、使用目的など前もって予習しておいてもらいたい。
評価方法	1. 定期試験（94%） 2. 小テスト（6%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	自分でも薬を使うことは、あるはずである。薬を適正に使えることは、医療従事者としてはもちろん、患者の立場になっても大切なことである。単純な暗記ではなく、基本からよく理解して習得してほしい。

【使用教科書・教材・参考書】

歯科衛生学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3　薬理学」 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修
医歯薬出版株式会社

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名 (英)	生化学 (Biochemistry)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	四釜洋介
学科	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期
コース	昼間Ｉ部					曜日・時限	月曜・４限

【授業の学習内容】

生化学は生命活動を維持するために必要な、生体内で起こる様々な化学反応を扱う学問である。摂取した食べ物は消化吸収され、種々の化学反応により様々な物質に合成あるいは分解されている。これら分子、細胞、組織レベルにおける代謝メカニズムを習得する。また、口腔生化学として、歯および歯周組織、唾液、歯垢（デンタルプラーク）に関する知識習得を目指す。本講義を通して、歯科衛生士として臨床で働く際に必要となる、生化学的基礎知識の習得を目指す。

※実務者経験:大学病院、高度専門医療研究センターに所属し、歯科・口腔領域の臨床と基礎研究に従事してきた。

【到達目標】

飲食は人間が生きて行く上で必須の行動であり、口腔はその入り口として機能している。咀嚼、嚥下、消化、吸収を経てそれら飲食物から生命維持に必要なエネルギーを得ると同時に、体に必要な物質を合成する。本講義は、患者さんの症状を生化学的な目線で理解、把握し、臨床に活かす事が出来る歯科衛生士になるための基礎知識習得を目的とする。

授業計画・内容	
1回目	総論：生化学とは何か、細胞の種類や細胞内小器官について理解し説明できる。教科書ｐ１－ｐ８
2回目	生体構成要素１：水および糖質について説明できる。教科書ｐ９－ｐ１６
3回目	生体構成要素２：脂質、タンパク、ビタミン、ミネラルについて説明できる。教科書ｐ１６－ｐ２２
4回目	生体における化学反応について説明できる。教科書ｐ２３－ｐ２８
5回目	糖質と脂質の代謝について説明できる。教科書ｐ２９－ｐ３７
6回目	タンパク質とアミノ酸の代謝について説明できる。教科書ｐ３８－ｐ４３
7回目	生体における恒常性の維持について説明できる。教科書ｐ４４－ｐ４７
8回目	歯と歯周組織の生化学：歯周組織、結合組織、歯の成分について説明できる。教科書ｐ５０－ｐ６４
9回目	硬組織の生化学１：石灰化、リモデリングについて説明できる。教科書ｐ６５－ｐ７２
10回目	硬組織の生化学２：ホルモン調節、脱灰と再石灰化について説明できる。教科書ｐ７３－ｐ８０
11回目	唾液の生化学：無機質、有機質について説明できる。教科書ｐ８１－ｐ８９
12回目	プラークの生化学１：種類、形成、酸産生について説明できる。教科書ｐ９０－ｐ９８
13回目	プラークの生化学２：食生活の関与、口臭発症機構について説明できる。教科書ｐ９９－ｐ１０５
14回目	プラークの生化学３：歯周疾患発症機構について説明できる。教科書ｐ１０５－ｐ１１３
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	前期に学習した解剖学および生理学の知識が必要になりますので、しっかり復習しておいてください。
評価方法	１．定期試験（90%） ２．出席（10%） 評価方法はＧＰＡ制度となります １００～９０点　Ｓ ８９～８０点　Ａ ７９～７０点　Ｂ ６９～６０点　Ｃ ５９点以下　Ｆ不合格
受講生への メッセージ	授業は、最初に前回授業内容の復習、最後にその日の授業内容を踏まえた問題（国家試験に準じた出題形式）を出題します。主に復習に重点を置いて学習してもらえればと思います。

【使用教科書・教材・参考書】

最新歯科衛生士教本　人体の構造と機能２　栄養と代謝

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	口腔衛生学（ Oral Hygiene ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	新井歌織　伊藤恭子
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	木曜 ・ 1限

【授業の学習内容】

それぞれの個人が、健康を保持していくように導く理論と方法を、医学的立場から取り扱うのが「衛生学」である。その中で歯・口腔は特異的な分野であるので、これらを「口腔衛生学」という。それぞれ異なった日常生活をしている人々の歯・口の健康を保つために、必要な理論や知識、そして臨床の場で実践していくための手段・技術を勉強していく。

【到達目標】

それぞれの個人の歯・口腔の健康を保つため、予防に関わる人間と社会の仕組みを理解することが目標である。
＜具体的到達目標＞
(目標1)口腔の健康の定義を説明できる。
(目標2)う蝕・歯周疾患について説明できる。
(目標3)う蝕・歯周疾患の予防法について説明できる。
(目標4)個人のライフステージごとの口腔保健管理を考察する。

授業計画・内容	
1回目	(目標1)口腔衛生学とは何かを説明できる
2回目	(目標2)歯周疾患の種類と原因が説明できる。
3回目	(目標3)歯周疾患の予防法を列挙できる。
4回目	(目標1)歯と歯周組織の構造と働きを説明できる
5回目	(目標1)歯・口腔の付着物・沈着物を説明できる。
6回目	(目標2)口腔清掃の意義を説明できる。
7回目	(目標2)歯磨剤および洗口剤の種類・組成について説明できる。
8回目	(目標2)う蝕・歯周疾患の疫学的特性を説明できる。
9回目	(目標2)う蝕発生メカニズムについて説明できる。
10回目	(目標4)う蝕発生の第一次予防、第2次予防、第3次予防について説明できる。
11回目	(目標2)う蝕発生要因について説明でき、それぞれの予防法を理解する。
12回目	(目標3)フッ化物応用によるう蝕予防法を列挙できる。
13回目	(目標3)フッ化物の毒性を認識し、正しい対処法を理解できる。
14回目	(目標3)フッ素のう蝕予防メカニズムを理解し、ライフスタイルに応じたフッ化物の応用法を説明できる。
15回目	定期試験
準備学習時間外学習	歯・口腔の健康を守るにはどうしたら良いか、日常生活の中でアンテナを張っておく。 各回でプリントを配布します。整理と復習を行うこと。
評価方法	定期試験（100%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	歯の健康づくりに対する人々の関心は年々高まってきており、歯科保健指導や歯科予防処置などの業務を通じて、歯科衛生士の果たす役割はとても重要です。そして、その基礎となるのが口腔衛生学です。口腔衛生学は基礎分野から臨床分野まで幅広く、関わってくるので、しっかり学習してきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

最新歯科衛生士教本「保健生態学」

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名 （英）	歯科衛生学総論 （Dental Hygiene Theory）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	飯岡　美幸
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			（単位）	2	曜日・時限	木曜 2限

【授業の学習内容】

この単元は、歯科衛生学を学ぶ学生がその全体像を理解するための科目となっています。これから始まる歯科衛生教育に興味を持ち、歯科衛生士としての業務を理解すること、やりがいを感じてもらうことを中心に講義を進めていきます。
専門知識・技術・態度を身につけていくスタートに役立つことを願っています。
歯科衛生活動の各現場より、歯科衛生業務や日々のやりがいについて説明頂きます。また、繋がりとして、愛知県歯科医師会館内にある「歯の博物館」にて校外研修を予定しています。
※実務者経験：1995年より10年間一般歯科で実務経験を積み、その後介護支援専門員として5年間、グループホーム・居宅介護支援事業所で実務経験を積んだ。2012年より歯科衛生士専任教員として「歯科衛生士（教育）」の認定を取得し、歯科診療補助論を中心に学生指導に携わっている。

【到達目標】

歯科衛生を実践して人びとの健康づくりを支援する者となるために、保健医療人としての基本的態度について理解し、多様な科目において知識・技術を修得する態度および論理的思考法の基礎を修得する。

授業計画・内容	
1回目	第1章　歯科衛生学とは　　第7章　1．歯科衛生活動の活躍の現況、2．歯科衛生活動の場
2回目	第2章　歯科衛生の歴史
3回目	第7章　2．歯科衛生活動の場　1.医療施設　1）歯科診療所
4回目	第5章　歯科衛生士法と歯科衛生業務
5回目	第7章　歯科衛生活動の場　1.医療　2）歯科訪問診療
6回目	第3章　歯科衛生活動のための理論
7回目	第7章　歯科衛生活動の場　1.医療　3）保健センター
8回目	第4章　歯科衛生過程
9回目	第7章　歯科衛生活動の場　1.医療　4）病院
10回目	第6章　歯科衛生士と医療倫理
11回目	（校外研修）歯の博物館見学
12回目	（校外研修）歯の博物館見学
13回目	第7章　3．歯科衛生士と組織
14回目	第8章　海外における歯科衛生士
15回目	筆記試験、概説

準備学習時間外学習	この単元は、外部講師の講義受講後のレポート提出があります。授業の内容をしっかりと理解し、内容の深いレポートが書けるようにしてください。講義については、確認テストを随時行います。章ごとの勉強をして、期末試験に対応できるようにしましょう。	
評価方法	1．定期試験（50%） 2．レポート提出・評価（20%） 3．授業態度・出席率(10%) 4．課題成果（確認テスト）（20%） ※総合評価します。	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	歯科衛生士の活動の場は、年々広がり、社会的に大変重要視されています。 歯科衛生士について、深く学び、より歯科衛生士になりたい気持ちを膨らませましょう。	

【使用教科書・教材・参考書】

最新　歯科衛生士教本　歯科衛生学総論

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	歯科保存学（Conservative Dentistry）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	向井正視
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	金曜・2限

【授業の学習内容】

歯の保存療法（歯科保存学）の歯科臨床における位置づけを学び、歯を健康な状態で保存するための学問である歯科保存学の役割を理解できるように学習する.
歯科保存学は歯科臨床の場において、歯科衛生士が関わる内容が多く、実際、患者の口腔内で積極的に行う処置が含まれる。そのため、各種の疾患、対処法そして実際に使用する器材・薬剤についての習得が必要になり、各項目について適切に説明できるようにする.
※実務者経験：歯学部附属病院での歯科臨床歴（歯科保存認定医）並びに歯学部における歯科教育歴は40有余を有する.

【到達目標】

歯科保存領域の硬組織疾患並びに歯髄疾患・根尖性歯周疾患に関する基本的な知識を習得する.
目標①歯を保存することの意義を説明することができる.
目標②歯の硬組織疾患を説明でき、各種修復法ならびに使用する器材について説明することができ、取り扱えるようにする.
目標③歯髄疾患並びに根尖性歯周疾患について説明することでき、各処置内容ならびに使用する器材を取り扱い、各処置について使用する薬剤を説明することができるようにする.

授業計画・内容	
1回目	歯並びに歯周組織の名称および構造について説明ができる
2回目	歯の保存療法の対象となる疾患並びにその診査法を説明でき、その一部を実施することできる
3回目	硬組織疾患、とくにう蝕とその処置方法について正確に説明ができる
4回目	う蝕の処置に際して使用する器材について説明ができる　歯髄保護について理解する
5回目	コンポジットレジン修復ー修復材料ならびにその技法について正確に説明ができる
6回目	グラスアイオノマーセメント修復並びに歯科用セメントについて説明ができる
7回目	インレー修復の概要、とくに印象採得について説明できる
8回目	ベニア修復の概要並びにホワイトニングについて説明ができる　補修修復について説明できる
9回目	歯髄・根管並びに根尖性歯周組織について説明ができる　歯内療法の目的を説明できる
10回目	歯髄炎と根尖性歯周炎の原因と症状について説明ができる
11回目	歯髄保存療法について説明ができる
12回目	根管治療の概要を説明でき、とくに使用する器材について詳細に説明ができる
13回目	根管充填ならびに外科的歯内療法について説明ができる
14回目	歯内療法における歯科衛生士の役割と安全対策を説明ができる
15回目	まとめ　保存修復と歯内療法とを学んで「歯を保存する」ことの意義を説明することができる

準備学習時間外学習	歯科保存学には「歯の解剖と組織」の知識が必要です。前期で履修した関連科目の復習をしておいて下さい		
評価方法	1. 定期試験（90%） 2. 出席（10%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	講義1～8回の保存修復分で試験を、 9～15回の歯内療法分で試験をします
受講生へのメッセージ	歯科保存学は実習に直結する講義ですので、講義時間内に少しでも覚えるように努力しましょう. 授業時間の関係でかなり濃密な内容になりますので、指示された箇所のマーキングを必ずしましょう. 欠席をしないように.		

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：　歯科衛生学シリーズ　保存修復学・歯内療法学

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	歯周病学（ Periodontology ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	後藤　亮真
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	後期
コース	昼間　Ⅰ部				2	曜日・時限	木曜・1限

【授業の学習内容】
全ての授業を通して、歯科衛生士として歯周病の病因と治療方法について理解し、論理的に説明できるまでの知識の習得する。

【到達目標】
1年生時に必要な基礎的な知識や専門的な知識の習得を目標とする。
その中でより専門的な歯周病を理解し、予防や治療に対する知識を備え、歯科衛生士として正しい知識と理論を習得することで臨床や国家試験に対応できる歯科衛生士となることを目標とする。

授業計画・内容	
1回目	歯周学総論歯肉炎と歯周炎の臨床症状とその治療　・歯周病とその治療に関する基礎的事項について
2回目	歯周組織の構造1　歯肉　・歯肉の臨床的、解剖学的、組織学的構造と機能について
3回目	歯周組織の構造2 歯根膜、セメント質、歯槽骨・歯を支持する組織の構造と機能について
4回目	歯周病の病態と病因1　歯周病の原因と病態　・プラークの構造、組成とそれによる歯周病発症のメカニズムについて
5回目	歯周病の病態と病因2　歯周病のリスク因子、修飾因子　・歯周病の発症や進行に影響を与える因子について
6回目	歯周病の診査・診断1　歯周病の検査　・歯周病の病状把握に必要な検査とその意義について
7回目	歯周病の診査・診断2　歯周病の分類と診断　・さまざまな歯周病の特徴とその診断について
8回目	歯周病の治療1　歯周治療の流れと治療のゴール　・歯周病治療の進めかたと目標、歯周病の治療について
9回目	歯周病の治療2　歯周基本治療1　プラークコントロール　・機械的、化学的プラークコントロールの目的と方法について
10回目	歯周病の治療3　歯周基本治療2　スケーリング・ルートプレーニング　・歯肉縁下の炎症性因子の除去とその方法に
11回目	歯周病の治療4　歯周基本治療3　咬合調整、固定　・外傷性咬合が歯周組織に与える影響とそれに対する処置について
12回目	歯周病の治療5　歯周外科手術1　・再評価の意義と歯周外科治療の必要性について
13回目	歯周病の治療6　歯周外科手術2　・各種歯周外科処置の種類と器具について
14回目	歯周病の治療7　再評価、メインテナンスとペリオドンタルサポーティブセラピー（SPT）　・メインテナンスとSPTの意義
15回目	試験および試験解説
準備学習時間外学習	各回にレジメプリントを配布します。 プリントを利用し、次の回までに復習を行ってください。試験はレジメプリントを中心に出題されます。
評価方法	1. 定期試験（75%） 2. 出席（25%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	授業はスライドを使用し、それに沿って作成したレジメを使用しながら、穴埋め形式で授業を進めていきます。

【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本　歯周病学第2版

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	歯科補綴学（Prosthetic Dentisty）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	歯科衛生士科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	月曜・2限

【授業の学習内容】

補綴装置にはクラウン、ブリッジ、義歯、インプラントに大別され、それぞれの名称、構成要素を知ることが必要です。さらに、それぞれの装置の製作方法および業務際の器材を準備、説明できるようになる。

※実務者経験：2002年4月から2007年3月まで北海道大学病院義歯補綴科に在籍、2014年4月から名古屋市立大学病院歯科口腔外科に所属していた。

【到達目標】

まずは、歯牙欠損の状態および咬合の基本的知識の習得を目指します。次に補綴装置の名称および構成要素や作製方法を説明できよう学習していきます。最後に補綴装置を作製するにあたっての器具や衛生士業務を実践に向けて学習します。

授業計画・内容	
1回目	補綴の概要　　第1章：補綴治療の基礎知識　1、歯列形態
2回目	2、顎口腔系の機能　3、咬合について　4、歯の欠損について
3回目	5、顎関節について　6、補綴の種類
4回目	補綴治療の実際　1、診断および検査
5回目	2、クラウン治療
6回目	3、ブリッジ治療
7回目	4、有床義歯の治療（全部床義歯　部分床義歯）
8回目	5、インプラント治療
9回目	衛生士の役割　1、検査、診断時の業務
10回目	2、クラウン、ブリッジ治療時の業務
11回目	3、義歯治療時の業務　4、インプラント治療時の業務
12回目	5、患者指導について
13回目	総復習　まとめ
14回目	試験
15回目	試験解説
準備学習 時間外学習	毎回の講義資料をもとに復習が必要です。
評価方法	1. 定期試験（90%） 2. 授業態度（10%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格 定期試験と授業態度（出席等）で総合評価をします。
受講生への メッセージ	この補綴学は日々の診療では必ず目にすることになり、歯科の講座の中でも非常に重要な科目となります。歯がなくなった後、どうやって治療をしていき、どうやって患者を噛めるようにしてQO向上させるかを学ぶのはこの補綴学になります。出席も加味して総合評価になりますので、しっかりと講義に出席して下さい。

【使用教科書・教材・参考書】 全国歯科衛生士教育協議会監修　咀嚼障害・咬合異常1　歯科補綴

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	歯科放射線学（Oral Radiology）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	内藤宗孝・西田智
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	15	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	金曜 3・4限

【授業の学習内容】

歯科診療におけるエックス線検査の役割は大きく、う蝕などの広がりや歯周疾患における骨吸収の度合いを正確に診断し、治療方針を決定するにはエックス線画像が必要不可欠となる。医療でどのようにエックス線や放射線が有効に利用されているか、どのようにしたら安全に利用できるかを学び、歯科放射線学を理解する。
※実務者経験：内藤宗孝は歯科医師で、愛知学院大学歯学部附属病院の放射線・画像診断科に36年勤務している。
西田智は歯科医師で、愛知学院大学歯学部附属病院で研修医として1年、その後にしだ歯科医院に勤務の傍ら、歯科放射線学講座に研究生として在籍している。

【到達目標】

エックス線や放射線を理解し、歯科診療に応用される画像検査法の基本的な知識を修得する。また、放射線治療の基本的な知識を修得する。
〈具体的な目標〉
目標①エックス線や放射線が説明できる。
目標②口内法エックス線撮影が説明できる。
目標③パノラマエックス線撮影、頭部エックス線撮影が説明できる。
目標④CT,MR,US,放射線治療が説明できる。

授業計画・内容	
1回目	放射線の種類と性質について説明ができる。
2回目	口内法エックス線撮影の正放線投影、二等分法、平行法について説明ができる。
3回目	口内法エックス線撮影の咬翼法、咬合法について説明ができる。
4回目	パノラマエックス線撮影の原理と撮影手順について説明ができる。
5回目	頭部エックス線撮影の種類とその介助の方法について説明ができる。
6回目	フィルム処理とデジタル撮影の種類と原理について説明ができる。
7回目	放射線の影響と放射線防護について説明ができる。
8回目	CT,MR,US,放射線治療について説明ができる。
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	（目標①）前提：この授業を受けるには、物理学の理解が不可欠です。 （目標②）口内法エックス線撮影では歯およびその周囲の解剖学の復習が必要です。 （目標③）パノラマエックス線撮影、頭部エックス線撮影では顎顔面領域の解剖学の復習が必要です。 （目標④）CT,MR,US,放射線治療ではコンピュータ技術の理解が必要です。
評価方法	1．定期試験（80%） 2．出席・小テスト（20%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	予習・復習をしてください。特に関連性のある解剖学などの基礎分野についても復習が必要です。

【使用教科

歯科衛生士テキスト　わかりやすい歯科放射線学　第3版

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名 （英）	歯科予防処置論Ⅰ （ Oral Prophy laxis Ⅰ ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	武藤　裕美 山田　和代　・　渡辺理紗
学科	歯科衛生科	授業 形態	実習	総時間	60	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			（単位）	2	曜日・時限	木曜　3・4限

【授業の学習内容】

歯科予防処置を実施するために必要な基礎知識と基本技術を修得し、その意義と目的を理解し、歯科医療者としての基本的態度を実践する。

※2002年より現在まで一般歯科・保健センターで歯周病治療をメインとする予防処置業務に携わり、後輩指導業務も兼ねている。
また、2019年より歯科衛生士非常勤として、歯科予防処置論を中心に学生指導に携わっている。

【到達目標】

正常な歯・歯周組織と口腔の機能について概説する。
う蝕と歯周病の原因と分類、進行および予防方法について説明する。
歯石除去に用いる器具の種類と適応を説明する。
模型上での縁上歯石除去を実施する。

授業計画・内容	
1回目	歯科予防処置の定義と位置づけを理解し、説明できる。／歯と歯周組織の構造を図示し、部位と名称を示すことができる。
2回目	口腔内の付着物と沈着物の種類と特徴を説明できる。／う蝕と歯周病の原因と進行度を説明できる。
3回目	手用ｽｹｰﾗｰの種類と特徴を説明できる。／シックルスケーラーの操作法を机上模型で実施する。
4回目	ファントムを用い、シックルスケーラーの操作法を模型で実施する。
5回目	ファントムを用い、スケーリング時のポジショニングを実施する。
6回目	ファントムと模型を用い、上顎前歯部の歯石除去を実施する。
7回目	ファントムと模型を用い、下顎前歯部の歯石除去を実施する。
8回目	ファントムと模型を用い、下顎左側臼歯部の歯石除去を実施する。
9回目	手用スケーラーのシャープニングに必要な道具と使用法を説明できる。／シックルスケーラーのシャープニングを実施する。
10回目	ファントムと模型を用い、下顎右側臼歯部の歯石除去を実施する。
11回目	ファントムと模型を用い、上顎左側臼歯部の歯石除去を実施する。
12回目	ファントムと模型を用い、上顎右側臼歯部の歯石除去を実施する。
13回目	全顎のｽｹｰﾘﾝｸﾞﾎﾟｼﾞｼｮﾝと患者設定を実施する。／ｼｯｸﾙｽｹｰﾗｰの操作法3種とﾐﾗｰ操作を熟練する。
14回目	ファントムと模型を用い、シックルスケーリングの実技試験を実施する。
15回目	知識の総まとめとして筆記試験を実施する。／実技試験を振り返り、不足している技術を補充する。
16回目	筆記試験を振り返り、不足している知識を補充する。／実技確認を行い自己の技術評価を実施する。

準備学習 時間外学習	毎回、前の授業の知識や技術を使い実習が進みます。授業終了後の復習を欠かさないようにしてください。 各授業の最初に前回の内容の復習小テストを実施します（評価に含まれる）。 歯石除去には指のトレーニングが必要です。毎日10分の基本訓練を実施してください。
評価方法	1. 定期試験（35%） 2. 小テスト（10%） 3. レポート（10%） 4. 授業態度（10%） 5. 実地試験（35%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生への メッセージ	実習が中心であり、2コマ続きで実施します。内容には継続性があり、授業の進行により知識・技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け、予習復習を積極的に行ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	歯科予防処置論Ⅱ（ Oral Prophy laxis Ⅱ ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	武藤　裕美 山田　和代、渡辺　理紗
学科	歯科衛生科	授業形態	実習	総時間	60	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			（単位）	2	曜日・時限	木曜　3・4限

【授業の学習内容】

歯科予防処置を実施するために必要な基礎知識と基本技術を修得し、その意義と目的を理解し、歯科医療者としての基本的態度を実践する。

※実務者経験：2002年より現在まで一般歯科・保健センターで歯周病治療をメインとする予防処置業務に携わり、後輩指導業務も兼ねている。また、2019年より歯科衛生士非常勤として、歯科予防処置論を中心に学生指導に携わっている。

【到達目標】

・う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な技術、技能および態度を習得する。
・う蝕予防処置の臨床的効果、作用機序、安全性および便宜性について説明できる。
・う蝕予防処置に関連する生活習慣の把握方法、全身疾患との関連について説明できる。
・う蝕予防処置法を実施する。
・う蝕に関わる口腔診査を理解し、実施する。

授業計画・内容	
1回目	う蝕予防処置法について（法律、種類と範囲、歯科衛生士の役割）説明できる。／う蝕について（う蝕の基礎知識、プラーク、歯・唾液）復習する。
2回目	う蝕に関わる口腔診査（補綴物・修復物）を理解する。／自分の口腔内診査を実施し、歯科略語で記録する。
3回目	う蝕活動性試験を実施し、結果を記録する。／口腔内診査・う蝕活動性試験の結果から自分の口腔内を分析する。
4回目	う蝕活動性試験を実施し、結果を記録する。／口腔内診査・う蝕活動性試験の結果から自分の口腔内を分析する。
5回目	フッ化物応用について（薬剤、各種応用法、毒性）説明できる。／フッ化物の悪心・嘔吐量の計算ができる。
6回目	各種応用法で使用する薬液量とフッ化物量が計算できる。／フッ化物の効果実験（卵と酢）を実施する。／各種応用法の実際を理解し、洗口法を実施する。
7回目	綿球法、イオン導入法、トレー法を相互で実施し、その術前術後指導ができる。／フッ化物歯面塗布法についてまとめる。
8回目	フッ化ジアミン銀塗布法（抜去歯、手指、布、模型で塗布術式実施、薬剤の処理）を実施し、その術前・術後指導ができる。
9回目	フッ化ジアミン銀塗布法（抜去歯、布）の結果をまとめる。／歯面研磨について（目的、歯面研磨剤、使用器材と操作法、注意事項）を説明し、模型上で実施する。
10回目	小窩裂溝塡塞法（適応、種類と特徴、術式、う蝕の初発部位、）について説明し、その術前・術後指導ができる。／エナメル質の酸処理観察実験を実施する。／ｼｰﾗﾝﾄ模型歯に塡塞を実施する。
11回目	ｼﾝﾌﾟﾙﾏﾈｷﾝを使用し、ユニット実習室で小窩裂溝塡塞を実施する。／歯面研磨を模型上で実施する。
12回目	相互に口腔内で小窩裂溝塡塞法を実施する。
13回目	筆記試験に向けて知識を総復習する。／実技試験に向けてフッ化物歯面塗布法（綿球法）と小窩裂溝塡塞法について実技を総復習する。
14回目	実技試験のロールプレイングを実施する。
15回目	実技試験を実施する。
16回目	筆記試験を実施する。
準備学習時間外学習	毎回、前の授業の知識や技術を使い実習が進みます。授業終了後の復習を欠かさないようにしてください。 各授業の最初に前回の内容の復習小テストを実施します（評価に含まれる）。 使い方を誤ると危険な器具や薬品を使用するため、術式や材料の特性など授業前に確認が必要です。
評価方法	1. 定期試験（35%） 2. 小テスト（10%） 3. レポート（10%） 4. 授業態度（10%） 5. 実地試験（35%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	実習が中心であり、2コマ続きで実施します。内容には継続性があり、授業の進行により知識・技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け、予習復習を積極的に行ってください。 相互実習を含みます。医療安全対策に留意してください。

【使用教科書・教材・参考書】

歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	歯科保健指導論Ⅰ Oral Health Instruction Ⅰ	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	渡辺理紗
学科	歯科衛生科	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	60	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	金曜、3・4限、教室・実習室

【授業の学習内容】
・健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持し、増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を修得します。
・対象者に対して適切な歯科保健指導を行うために必要な基礎知識、特に口腔清掃の必要性・口腔清掃技術を取得します。
※実務者経験：大学病院、総合病院にて周術期口腔機能管理（歯科保健指導、歯科予防処置）を中心に実務経験。現在に至る。

【到達目標】
対象者の意識改革・行動変容を起こすことができる。そのために必要な基礎知識を修得する。
自分自身の口腔の管理を行うことができる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション・歯科保健指導論の概要。健康の概念から歯科保健行動が説明できる。
2回目	口腔の基礎知識、う蝕、歯周病の基礎知識を説明できる。
3回目	保健行動支援について説明ができ、自身の生活習慣から行動変容を考えることができる。
4回目	歯垢染色剤、口腔内チャートの書き方を理解することができる。 実習：『口腔内観察・綿棒塗布による歯垢染色剤』
5回目	分析のためのデータ①　『PCR・OHI・OHI-S』の算出が習得できる。
6回目	口腔衛生管理に関する清掃用具・歯ブラシによる為害作用の説明ができる。
7回目	歯ブラシの毛先を使用したブラッシング方法・歯ブラシの脇腹を使用したブラッシング方法の説明ができる。 様々な歯ブラシを観察し検討する。
8回目	補助的清掃用具について説明ができる。
9回目	補助的清掃用具について説明ができる。
10回目	実習：『ピンセットを使用した口腔内染色』
11回目	歯磨剤の成分について説明できる。
12回目	実習：『歯磨剤作製』
13回目	各種ブラッシング方法のまとめ
14回目	実技テスト
15回目	期末試験・試験解説
準備学習時間外学習	この単元は他の科目と関連した内容を多く含みます。小テストの勉強と理解を深め、知識の定着を深めるために復習は必須になります。使用教科書以外に他の教本も使用し、レポートに取り組んでください。
評価方法	1. 定期試験（35%） 2. 実技試験（35%） 3. 授業態度（10%） 4. 課題成果(小テスト)（10%） 5. 提出物（10%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	知識の確認とため小テストを行います。 内容には継続性があり、授業の進行により知識、技術が積み重ねられていくため、 体調管理に気を付け、予習復習を積極的に行ってください。

【使用教科書・教材・参考書】
最新　歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	歯科保健指導論Ⅱ（Oral Health InstructionⅡ）	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	渡辺理紗
学科	歯科衛生科	授業形態	実習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	火曜・12限

【授業の学習内容】

・口腔保健の基礎となる対象者の把握と評価に基づいた歯科衛生ケアプロセス（歯科衛生過程）を修得する。

・歯周疾患の指数、プロービング操作を習得する。

※実務者経験：大学病院に勤務。

【到達目標】

・歯科衛生ケアプロセス（歯科衛生過程）を書面化し、歯科衛生評価できる

・歯周疾患の指数、画像、歯周病について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション　　洗口剤・洗口液
2回目	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理
3回目	主体的情報の把握・医療面接
4回目	実習：『医療面接』
5回目	客観的情報の把握
6回目	客観的情報の把握・エキスプローラーの基礎知識
7回目	実習：『エキスプローラーによるプラーク測定』
8回目	客観的情報の把握・プロービングの基礎知識
9回目	歯周疾患の指数について説明ができる　その他の指標の復習
10回目	基礎実習：『顎模型を使用したプロービングの操作』を習得する
11回目	基礎実習：『顎模型を使用したプロービングの操作』を習得する
12回目	相互実習：『相互実習（上顎）の操作』を習得する
13回目	相互実習：『相互実習（下顎）の操作』を習得する
14回目	相互実習：『相互実習（上下顎）の操作』を習得する
15回目	筆記試験・試験解説
準備学習時間外学習	この単元は他の科目と関連した内容を多く含みます。小テストの勉強と理解を深め、知識の定着を深めるために復習は必須になります。 使用教科書以外に他の教本も使用し、レポートに取り組んでください。
評価方法	1. 定期試験（50%） 3. 授業態度（20%） 4. 課題成果（20%） 5. 提出物（10%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	知識の確認とため小テストを行います。 内容には継続性があり、授業の進行により知識、技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け、予習復習を積極的に行ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

最新　歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論

歯周病学

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名 （英）	歯科診療補助論Ⅰ （Dental Auxiliary Ⅰ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	飯岡　美幸 小出　夕里
学科	歯科衛生科	授業 形態	実習	総時間 （単位）	60	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	水曜・12限

【授業の学習内容】

歯科診療補助論Ⅰでは、歯科診療補助に必要な基礎的理論、歯科診療補助業務の基礎知識、チェアサイドの共同動作を習得します。
※実務者経験：1995年より10年間一般歯科で実務経験を積み、その後介護支援専門員として5年間、グループホーム・居宅介護支援事業所で実務経験を積んだ。2012年より歯科衛生士専任教員として「歯科衛生士（教育）」の認定を取得し、歯科診療補助論を中心に学生指導に携わっている。

【到達目標】

(目標①)歯科診療の補助の概要について説明する。
(目標②)診療設備について説明する。
(目標③)歯科診療の補助を理解し、患者に対する直接対面行為の実際を修得する。
(目標④)医療安全管理について説明する。
(目標⑤)診療時の共同動作について説明と実習を行う。

授業計画・内容	
1回目	歯科診療補助と歯科衛生士の役割について学ぶ。歯科診療補助の意義、歯科衛生士法における法的位置づけ、診療の補助と介助の違い
2回目	歯科診療室の基礎知識（歯科診療室の環境、歯科用ユニットの各部の名称と操作方法について）
3回目	患者への声がけ、ユニット操作、シンプルマネキンの使い方
4回目	滅菌、消毒、洗浄の定義、各種滅菌法、消毒薬剤の種類と使用法
5回目	各種衛生材料の作製
6回目	各種衛生材料の作製
7回目	共同動作の基本、スリーウェイシリンジ、バキューム操作の基本、挿入位置など（マネキン実習）
8回目	術者補助者・患者のポジショニング、器具の受け渡し、部位別バキュームテクニック、器具の受け渡し（マネキン実習）
9回目	医療廃棄物の取り扱い、歯科診療室で発生する廃棄物、シンプルマネキンの使い方
10回目	相互実習を行う際の準備と片づけの手順、患者誘導、ポジショニング、ライティングなど
11回目	学生相互によるスリーウェイシリンジ、バキューム操作の基本、挿入位置など（相互実習）
12回目	術者補助者・患者のポジショニング、器具の受け渡し、部位別バキュームテクニック（相互実習）
13回目	実技の最終まとめ①
14回目	実技の最終まとめ②
15回目	手指消毒、衛生材料作成、ユニット消毒、共同動作テスト
16回目	知識の最終確認
準備学習 時間外学習	この単元は相互実習の基礎となるため、他の科目にも関連してきます。小テストやレポートがあり復習が必要です。また、事前学習として、その日の範囲の予習も行うと、よりスムーズに理解と実習が進みます。
評価方法	1. 定期試験（35%） 2. 実技試験（40%） 3. 小テスト（10%） 4. 授業態度(提出物内容含む)（10%） 5. 制作物（5%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生への メッセージ	実習が中心であり、2コマ続きで実施します。内容には継続性があり、授業の進行により知識・技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け、予習復習を積極的に行ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版)

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	歯科診療補助論Ⅱ（Dental Auxiliary Ⅱ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	飯岡 美幸 小出 夕里
学科	歯科衛生科	授業形態	実習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	水曜・34限

【授業の学習内容】

歯科診療補助論Ⅱでは、歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科薬剤の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得し、印象材、模型用材料の種類、ラバーダム防湿、合着・接着材について理解し、本授業修了時には各々の説明および治療準備ができるようになることをねらいとします。
※実務者経験：1995年より10年間一般歯科で実務経験を積み、その後介護支援専門員として5年間、グループホーム・居宅介護支援事業所で勤務した。2012年より歯科衛生士専任教員として「歯科衛生士（教育）」の認定を取得し、歯科診療補助論を中心に学生指導に携わっている。

【到達目標】

(目標①)歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる歯科材料の基礎知識を習得する。
(目標②)印象材の種類と基本的性質を説明し、各種印象材の練和、概形印象の採得を実践できる。
(目標③)模型用材料の種類と基本的性質を説明し、取扱いが実践できる。
(目標④)ラバーダム防湿の意義を理解し、使用器材、手順を説明し実践できる。
(目標⑤)合着・接着材の種類と基本的性質を説明し、練和方法を習得する。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)歯科材料の基礎知識：歯科材料の基礎知識、歯科材料の素材、歯科材料と歯科診療の流れ
2回目	(目標②) 印象材の取り扱い/アルジネート印象材①：印象材の分類/アルジネート印象材の特性と取扱い、練和方法
3回目	(目標②)アルジネート印象材②：上下顎の印象採得の手順、注意点、マネキン上にて上下顎の印象採得
4回目	(目標③)模型用材料の取り扱い：石膏の種類と用途、所要時間、特徴、取扱い方法
5回目	(目標③)模型用材料の取り扱い：石膏の種類と用途、所要時間、取扱い、上下顎の印象採得を行い石膏注入をし模型作製
6回目	(目標③)模型用材料の取り扱い：石膏の種類と用途、所要時間、取扱い、上下顎の印象採得を行い石膏注入をし模型作製
7回目	(目標②)寒天とアルジネートの連合印象：寒天印象材の特徴と操作方法、連合印象の手順
8回目	(目標②③)スタディモデル作製①：相互実習：相互実習の前準備、上下顎模型作製
9回目	(目標②③)スタディモデル作製②：相互実習：相互実習の前準備、上下顎模型作製
10回目	(目標②)その他の印象材：合成ゴム質印象材の特徴と操作方法、その他の印象材の取り扱い
11回目	(目標④)ラバーダム防湿①：ラバーダム防湿の目的、使用器材、手順、1歯露出法(翼付、翼なし)
12回目	(目標⑤)合着材および接着材①：合着材および接着材の基礎知識、種類と用途、所要性質（グラスアイオノマーセメント、カルボキシレートセメント）
13回目	(目標⑤)合着材および接着材②：所要性質（リン酸亜鉛セメント、接着性レジンセメント）
14回目	実技まとめ：印象採得、セメント練和
15回目	実技試験・筆記試験
16回目	試験解説
準備学習時間外学習	この単元は臨床実習の基礎となります。しっかりと予習と復習をし、なるべく実技に時間をさけるようにしていきましょう。
評価方法	1. 定期試験（40%） 2. 実技試験（40%） 3. 小テスト（10%） 4. 授業態度(提出物含む)（10%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	実習が中心であり、2コマ続きで実施します。内容には継続性があり、授業の進行により知識・技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け、予習復習を積極的に行ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版)、歯科材料（医歯薬出版）

名古屋医健スポーツ専門学校　2024年度 シラバス

科目名（英）	教養演習 Ⅰ Liberal Arts Exercises Ⅰ	必修選択	必修	年次	1	担当教員	熊谷あゆみ
学科	歯科衛生科	授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前・後期
コース	昼間 Ⅰ部				2	曜日・時限	木曜、3限または 4限

【授業の学習内容】
他学科、他学年と交流を持ち、協調性を身につける。
様々なイベントを通し、多方面から自身を分析し、コミュニケーション能力を身に着ける。

【到達目標】
自ら進んで参加し、自分にできることはなにか考え協力できる。

授業計画・内容	
1回目	授業を受けるポイントやノート整理、ファイリング方法を習得する。
2回目	各学生スタッフ、委員の選出。どのようなクラスにしていくか考えることができる。
3回目	レポートの書き方を習得する
4回目	学園祭を通して企画力、協調性を養い、地域貢献ができる。
5回目	学園祭を通して企画力、協調性を養い、地域貢献ができる。
6回目	学園祭を通して企画力、協調性を養い、地域貢献ができる。
7回目	学園祭を通して企画力、協調性を養い、地域貢献ができる。
8回目	校外研修「歯の博物館」を見学し、歯科衛生活動を行うために必要となる知識を習得する。
9回目	スポーツ大会を通して、運動の意義を考え、協調性を習得する
10回目	スポーツ大会を通して、運動の意義を考え、協調性を習得する
11回目	校外研修で産学連携について学ぶ。
12回目	中部テンタルショーへ参加し、今後の歯科業界の流れや新しい器具器材を知ることができる。
13回目	we　areIKENを通して、研究発表の形式や運営について学び、協調性を身につける。
14回目	普段出来ない診療室の掃除を行い、協調性を育み、メインテナンスの大切さを習得する。
15回目	一年を振り返り、次年度学年で何をするべきか、自分で考えることができる。
準備学習 時間外学習	学校行事に関して学会、学園祭、スポーツ大会、we　are医健、デンタルショーは全て出席することを単位認定の条件とする。
評価方法	1. 出席（50%） 2. レポート（20%） 3. 課題（10%） 4. 授業態度（20%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格 学校行事に関して学会、学園祭、スポーツ大会、we　are医健、デンタルショーは全て出席することを単位認定の条件とする。　欠席した場合、補講があります。
受講生へのメッセージ	前後期続きの科目となります。臨床実習中で時間割が変更となる場合がありますので、時間割変更に注意してください。学生の間に身に着けたい教養について、考えていきます。演習を中心に行うため、積極的に参加し、能動的な学びができるよう、心がけてください。

【使用教科書・教材・参考書】

授業内で配布されるプリント、レポートを使用します。